三年補充プリント②

① 格助詞　文節と文節の関係を示します。主として体言につきます。

の
- 私の出した手紙。
- 遠くの山を眺める。
- 私は泳ぐのが好きだ。
- よいの悪いのと文句を言う。

が
- 人が歩いている。
- 食べものがほしい。

を
- 本を読む。
- 家を出発する。
- 船で川を渡る。

に
- 学校に行く。
- 十一時に寝る。
- 雪がとけて水になる。
- 講演を聞きに行く。
- 車にぶつけられる。

へ
- 北へ南へ走りまわる。
- 駅へ行く。

と
- 兄と買物にいく。
- トラとライオンと象がいる。
- 四月から高校生となる。
- 天才とたたえられた。
- 友達と話す。

から
- 九時から会議が始まる。
- 車から顔を出す。
- 原油からガソリンを作る。
- 事故は信号無視から起こった。

より
- 太郎は次郎より大きい。
- ここより先は進めません。

で
- 五時ですべては終了する。
- 木でおもちゃを作る。
- かぜで学校を休む。

や
- 辞書や参考書で調べる。

- 主語を示す
- 連体修飾語を作る
- 体言の代用＝こと
- 並立
- 主語を示す
- 対象
- 目的、対象
- 起点（場所）
- 移動する場所
- 場所
- 時間
- 作用の結果
- 動作の目的
- 相手
- 方向
- 帰着点
- 共同の相手（～と共に）
- 並立
- 成り行きや結果
- 引用
- 相手
- 起点（時間）
- 起点（場所）
- 原料・材料
- 原因
- 比較の基準
- 限界
- 場所・時
- 材料
- 原因・理由
- 並立

言い換えると…

☆（鬼）（戸）（出）（空）（部屋）
「をにがとよりで、からのへや」で覚えよう！

3 次の例文の「の」と同じ働きをするものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

例　父の作った料理は、思ったよりもおいしい。
ア　雨が降るのを眺める。
イ　大切なのは、親友をみつけることだ。
ウ　花の咲く季節が近づく。　エ　林に風の音が響く。
（　　）

4 次の例文の「に」と同じ働きをするものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

例　ごみが目に入って痛い。
ア　太陽は静かに沈んでいく。　イ　毎年ふるさとに帰るはずだ。
ウ　朝六時に起きる。　エ　水が凍って氷になる。
（　　）

5 次の例文の「から」と同じ働きをするものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

例　いたずら心から、彼はそこに隠れて私を驚かすつもりでいた。
ア　この事件があってから、彼は小鳥のわなを作ることをやめた。
イ　五匹の猫がいっぺんに、塀からどっと落ちてきた。
ウ　事件は父の持ち帰った小さな折り詰めから、始まった。
（　　）

6 次の例文の「で」と同じ働きをするものをア～ウから選び、記号で答えなさい。

例　台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。
ア　港は波も穏やかで、船出には絶好の日和だ。
イ　家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。
ウ　久しぶりの雨で、庭の草木も生気を取り戻した。
（　　）

② 副助詞　さまざまな意味を付け加えます。いろいろな語に付きます。

か
- だれか私を呼んでいる。
- 父か母が来ます。
- 計画はどうなっているのやら。

やら
- 泣くやら怒るやら。

とか
- 地位とか名誉とかを重んじる。
- お茶とか飲みませんか。

くらい
- 五分くらい待ってください。

こそ
- 今年こそがんばるぞ。

さえ
- 大学生さえ解けない問題。

しか
- 子どもにしかわからない。

だけ
- 私だけがとり残された。

ずつ
- 一人に二つずつ配ります。

でも
- お茶でも飲もう。

だって
- 小学生でもできる問題。
- 子供にだってわかる。

など
- 君も困るが僕だって困る。

なり
- 猫などの動物を飼う。

ほど
- 行くなり帰るなりしなさい。

ばかり
- 十分ほど歩くと駅に着く。
- 二十人ばかり人が集まる。
- 寝てばかりいる。
- いま、家に着いたばかりです。

は
- 彼女は十五歳です。

も
- 見るまでは信じません。
- 犬も猫もいる。
- 水も飲みたい。

まで
- 彼とは話もしない。
- 朝は七時まで寝ている。
- 友達にまで笑われた。
- 雨が降り、風まで吹く。

- 不確かさ
- 選択
- 不確かさ
- 並立
- 並立
- 例示
- 大体の程度
- 強調
- 他の類推
- 否定と呼応する限定
- 限定
- 割り当て
- 例示
- 他の類推
- 他の類推
- 強調
- 例示
- 選択
- 大体の程度
- 大体の程度
- 限定
- 動作の直後
- 取り立てる
- 限定
- 並立
- 他に同類がある
- 強調
- 限度（限界、範囲）
- 極端な例
- 累加

7 次の文中の副助詞に、すべて――線を引きなさい。

(1) そのとき私は、水しかのどを通らないくらい疲れていた。
(2) 小学生でも解けるような問題ばかりを集めた。
(3) 彼さえいてくれれば、こんなに苦労することもなかった。
(4) 一人ずつ十分ほどの休憩を取ってください。
(5) 彼だけが来ない理由は、私だって知らない。

8 次の各文中の――線部の副助詞と同じ働きのものを選び、記号で答えなさい。

(1) 誰かここへ来たらしい。　（　　）
ア　辞書か参考書で調べる。
イ　今年は海か山へ行きたい。
ウ　何人か手伝ってくれたから助かった。

(2) 一年間で身長が十センチばかり伸びた。　（　　）
ア　あと五分ばかりで開始です。
イ　いつも自分ばかりしかられてしまう。
ウ　今、料理ができたばかりです。

(3) その花は、冬まで枯れないでしょう。　（　　）
ア　妹にまでばかにされてしまった。
イ　寒いと思ったら、やがて、雪まで降りはじめた。
ウ　五時まで駅で待っています。